

1. 調査報告概要表

作成日 2009年10月29日

【評価実施概要】

事業所番号	1570301299
法人名	社会福祉法人 上越あたご福祉会
事業所名	グループホーム大潟
所在地 (電話番号)	新潟県上越市大潟区土底浜978番地1 (電話) 025-534-6517
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県上越市富岡3446
訪問調査日	平成21年9月30日

【情報提供票より】(平成21年9月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 16 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建て	2 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	11,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:13,000円、金銭管理費:300円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 1,050 円			

(4)利用者の概要(平成21年9月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.78 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人国立病院機構犀潟病院・中島歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

車の通りの多い国道8号線から少し入った、緑に囲まれた小高い敷地にデイサービスと併設されたグループホームです。敷地が広く、緑も多いため、天気の良い日はお茶や昼食、お花見などをされています。法人は特別養護老人ホームなどを運営しており、同法人のグループホーム、小規模多機能施設とも定期的に管理者会議を行い、情報交換をしています。管理者を中心に統率のとれた組織となっており、ご利用者個々に合わせたしっかりとしたケアが行われているという印象を受けました。職員間のコミュニケーション、連携の良さを武器に、課題の改善に取り組まれることを期待します。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の際、課題となった「家族会の検討」に関しては、ご家族に開催の必要性を確認しました。また、「重度化や終末期に向けた方針の共有」については事業所の方針を定め、職員への研修も実施しました。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価に関しては、事前に説明会・勉強会を開催した上で、全職員で自己評価を分担して行い、ユニット会議にてまとめられました。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市の担当者、包括支援センター職員、町内会長、民生委員等に参加していただき、活発な意見交換と建設的な意見をいただける場として活かされています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	意見箱、苦情相談窓口の設置、アンケートの実施が行われています。率直な意見を十分に把握するようにご家族に家族会の開催を提案しましたが、必要性を感じないとの意見が多かったので開催はしていません。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しており、廃品回収への参加、小・中・高校生のボランティアの申込み、地元中学校の体験学習、敬老会への参加、お祭りの際にみこしに来てもらうなどの機会があります。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに事業所独自の理念も掲げており、毎年2月に職員と事業計画を検討する際にも理念の検討をしています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1ヶ月に1回のユニット会議、1～2ヶ月に1回の委員会の際に理念を確認し、実践できるように取り組んでいます。		調査当日のヒアリングでも確認させていただきましたが、理念を確認する機会が少ないようです。会議の際に必ず理念を確認する機会を持つ、理念を確認する回数を増やす等の検討を行い、理念の共有に繋がられることを期待します。
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族へは利用開始時の説明や日常的に事業所が大切にしていることの説明がされています。また、3ヶ月に1回事業所独自の広報を作成し、ご家族・町内・ボランティアの方に配布して事業所の活動を理解していただくようにしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、廃品回収への参加、小・中・高校生のボランティアの申込み、地元中学校の体験学習、敬老会への参加、お祭りの際にみこしに来てもらうなどの機会があります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価に関しては、事前に説明会・勉強会を開催した上で、全職員で自己評価を分担して行い、ユニット会議にてまとめられました。		調査当日のヒアリングでも確認させていただきましたが、昨年の課題を職員が理解されていないようですし、改善計画シートもされていません。課題の周知と取り組みを計画的に行い、課題の改善に繋がっていただくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者、包括支援センター職員、町内会長、民生委員等に参加していただき、活発な意見交換と建設的な意見をいただける場として活かされています。		昨年度は年5回の開催に終わってしまいました。定期的開催できるように、参加者への計画的な日程調整を進めていただくことを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者、総合事務所の班長、保健師など、困難事例の相談や対応策の検討など好意的かつ協力的な対応であり、事業所への訪問もあります。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、虐待防止に関するマニュアルの見直しを行っているほか、虐待防止に関する外部研修に参加した職員から、ユニット会議にて伝達研修を行い、職員への周知がされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	随時の電話連絡や定期受診の際、面談を実施し担当者からご利用者の最近の様子を伝える他、ご利用者一人ひとりのアルバムを作成しご家族に渡したりもしています。金銭管理についても2～3ヶ月に1回、収支の報告を書面にて行っています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情相談窓口の設置、アンケートの実施が行われています。率直な意見を十分に把握するようにご家族に家族会の開催を提案しましたが、必要性を感じないとの意見が多かったので開催はしていません。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議にて職員の意見を吸い上げるとともに、1年に1回「自己申告書」という形で、全職員が法人に対して相談や意見を出せる機会や、必要に応じた面談などの場が設けられています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所から5年が経過し、職員の異動は多いでしたが、申送り・日誌・生活記録などにより情報を共有が図られています。また、異動際にはご家族に対する電話や面談による挨拶やお別れ会の実施、行事の際に異動した職員と交流を行うなど、ダメージを防ぐ配慮が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	業務マニュアル・危機管理マニュアルなど、必要なマニュアルは完備されており、必要に応じて見直しや追加などが行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修・中堅職員研修・管理者研修・救命救急・応急手当などの内部研修や、さまざまな外部研修への参加と伝達研修、資格取得の推奨などが行われています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所とは管理者会議などを通じ、情報交換が行われていますが、昨年度同様、他法人の事業所との交流に関しては課題が残ります。		法人内の他事業所とも協力し、他法人の事業所との見学・相互研修などの機会を設け、サービスの質を向上されることを期待します。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人事考課により、本人の抱えるストレスや要求をくみ取り、必要に応じて個人面接を行っています。また、休憩時間の確保や勤務シフトへの配慮も行なっています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学・面談・事前面接・入所判定会議など、利用開始にあたり、十分に相互理解を深める機会が設けられています。また、よりご利用者の情報を把握できるように、アセスメント表の記入をご家族に要請するなどし、なじみの習慣などを知ることができるように努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員がご利用者の側にいられる時間が多くなるよう、家事作業などを職員とご利用者が一緒に行われています。また、畑作業やちまき・梅干・たくあん漬けなど、ご利用者が得意とすることは、職員が教えられる場面があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはカンファレンスやケアプランについての話し合いにも参加していただいています。また、ご家族がボランティアとして参加されることや、雑巾・タオル・トイレトペーパーなどの寄付をいただくなど、ご家族と事業所が一体になって利用者を支える関係が構築されています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際の情報収集とともに、日常のコミュニケーションから得られた情報を活動記録に記載がされていますが、記載された情報が十分に活用しきれていない状況です。		追加された情報は色を変えるなどして、職員間で分かりやすいようにし、情報の活用に繋げていただけることを期待します。
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	意向の把握と同様に、アセスメントの際の情報収集とともに、日常のコミュニケーションから得られた情報を活動記録に記載がされていますが、記載された情報が十分に活用しきれていない状況です。		上記同様に、追加された情報は色を変えるなどして、職員間で分かりやすいようにし、情報の活用に繋げていただけることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は必ず、ご本人・ご家族の要望が受け入れられる様、職員と共に話し合える場を設けています。また、計画作成後はご家族への説明を行い、同意を得ています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ユニット会議でのモニタリングを踏まえ、ケアプラン会議にて6ヶ月に1回の定期的な見直しが行われています。また、状態の変化がある場合には期間に関係なく、随時の見直しが行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族が遠方の場合や都合の悪い際の定期受診の職員の付き添いや、誕生日の夕食支援など柔軟に対応されています。また、併設のデイサービスセンターの機能訓練やお風呂、行事などを共有することで、生活のリズムに変化をつけるなどの対応も取られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのご本人・ご家族の希望する医療機関での受診が尊重されています。受診の際はサマリーや生活記録など必要な情報を書面にて同行されるご家族に渡すと共に、必要に応じて医師への電話での確認や職員の同行も行われています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年度の課題をふまえ、看取りを行う方針を定め、医師の協力も得られる形を確認しました。看取りの指針も作成し、職員への研修も行なうなど方針の共有に努めています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を利用目的を明確にし、適切な取扱いが行われています。また、声かけなどの羞恥心への配慮は、接遇・マナー研修の実施や管理者による適宜の注意によりしっかりと対応がとられています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな日課はあるものの、ご利用者の状況、天候に応じて柔軟に対応しています。職員の人数や業務の内容によって希望に添えない場面もありますが、できる範囲で対応するようにしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳など、ご利用者の能力に応じて共に行うとともに、メニューはご利用者と相談し、敷地内の畑から収穫した旬の野菜を食材に取り入れるなどの工夫がされています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状態に応じて排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握した上で、トイレ誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援がされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	開所時より午後の入浴を施行していますが、ご利用者のその日の希望を確認し、併設のデイサービスの大浴場の利用もしながら入浴支援が行われています。拒否のあるご利用者への対応も声かけの工夫を職員で共有し、連携を図りタイミングよく行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割・日課として、家事仕事や軽作業、畑仕事などがご利用者の得意分野に合わせて支援が行われています。また、併設デイサービスのレクやボランティアへの参加も行われています。他のご利用者の世話をすることが役割として張り合いとなっているご利用者もいます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩などの日常的な外出、祭りやぶどう狩りなどの行事への参加もボランティアの協力を得ながら行われています。また、敷地内が広く緑も多いため、お茶や昼食、お花見なども頻繁に行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっておらず、ユニット会議などの場を活用し、外部研修参加者からの伝達研修やケース検討が行われ、意識の統一が図られています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者個々の行動パターンの把握と共有、定期的な確認、併設デイサービスや1階の事務所(グループホームは2階)との連携により、日中は玄関の鍵をかけず自由に行動出来るように取り組んでいます。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒアリハットノート、事故報告とその後のカンファレンスにより、情報の共有と再発防止策が検討されています。また、未然に危険を防ぐため、ご利用者個々の状態を詳細に記したフェイスシートを作成するなど、継続的な事故防止への取り組みが行われています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急マニュアルの整備を行い全職員への周知を行っているほか、消防署の応急手当講習には職員全員が受けるようにしています。また、併設のデイサービスの看護師の指示を仰ぎ初期対応にあたるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの完備、防災委員会による連絡体制の検討、併設デイサービスと合同の避難訓練の実施を行っています。また地域の防災協力員に災害時、協力していただく体制をとっています。		事業所に水の備蓄がありませんでした。災害時を想定し、職員とどのようなものが必要か再確認されることを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週2回栄養士からアドバイスを受けており、1日を通しての栄養バランスを考慮し、季節感のある食材を取り入れた献立作りに努めています。個々の咀嚼状態、体調も考慮し、調理を工夫しているほか、水分補給についても個々に合わせ確保するように工夫しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールを中心に2つのユニットが構成され、非常にゆとりある空間になっていますが、適度な装飾により寒々しさを感じることはありません。共用のスペースには季節の花が常に飾ってあり、ご利用者に観て楽しんだりしていただいています。		細かいところですが、壁に飾っている作品にほこりがたまっていました。ご利用者に居心地よく過ごしていただけるよう、掃除に力を入れられることを期待します。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の使い慣れた物や写真など、落ち着ける空間作りへの配慮がされています。また、ご利用者の希望を取り入れ模様替えを行なうなどの対応もしています。		